

2002年を迎えて

“知の交流と集積”から広がる 新しい時代の息吹

—「安心・安全・快適」で結ばれるベスト・ソリューション・パートナーへ—

日立は今、コーポレートステートメント“Inspire the Next”を掲げています。これは“次の時代に新しい息吹をあたえつづける”という決意をこめたものです。社会の大きな変革のうねりの中で、時代に先駆けてお客様にご満足いただけるソリューションはどういうものかを絶えず模索し、その実現に向けて努力を続けています。

世界中にインターネットが浸透している今日、携帯電話やカーナビゲーションシステム、さらには家電品もネットワークにつながるようになって、まさに、だれもが、いつでも、どこからでも情報にアクセスして活用できる“ユビキタスな情報社会”が訪れています。このパラダイムシフトは、ビジネスや社会、生活を大きく変えつつあります。ビジネスでいえば、経営の効率化にとどまらず、新たなビジネスモデルの創出とビジネスプロセスの変革から大きなバリューが生まれようとしています。また、社会や生活においても電子行政システムやネットワーク家電などが、より便利で快適な暮らしを実現することでしょう。

このような時代においては、お客様や社会が求める商品・サービスをタイムリーかつ的確にお届けできる企業だけが、持続的な発展を可能とします。その意味で、研究開発やモノづくりの発想も根底から変えていかなければなりません。

創業以来、日立は“自前主義”のもとで信頼性の高い優れた商品・サービスを適正な価格で確実にお届けすることに努めてきました。今の時代はそれだけでは十分でなく、お客様が求める価値ある商品・サービスを、



日立製作所 取締役社長

山岡 悦彦

他社よりも速く、よりスピーディーに提供することが求められています。それを実現するため日立は“自前主義”にこだわらず、積極的に有力企業とのアライアンスを推進しています。また、次代を担う研究やビジネスを育てる日立コーポレート・ベンチャー・キャピタルファンドを設置したほか、社外の企業や大学、公的研究機関などとの「知の交流」を深めるための仕組みづくりにも力を入れています。

もちろん、こうした時代の基盤となるのは、日立が長年培ってきた幅広い分野にわたる先進技術やノウハウ、サービスであり、それを生かす人材にあることはいうまでもありません。日立は、そうした「知の集積」をコアとしてパートナーシップを広げ、お客様に最適なソリューションをお届けしたいと考えています。

「2002年度 日立技術の展望」は、まさにそうした「知の集積」の一端であり、新しい発展の可能性に満ちた「芽」でもあります。これらの芽をさらに育て豊かな実りとなって皆様とのパートナーシップが深まっていくものと期待しています。

“ユビキタスな情報社会”においては、情報はもはや社会に欠かせない“ライフライン”です。日立は「安心・安全・快適」をテーマに、皆様の「ベスト・ソリューション・パートナー」としていっそう邁進してまいります。

——社会が変わるとき、変えるのは日立でありたい。

それが日立の願いです。